

小学校外国語活動・外国語科における移行期の教材を使用した授業実践の構築 —教員研修キックオフセミナーでの示範授業—

高橋美由紀（愛知教育大学）

犬塚章夫（刈谷市立小高原小学校）

千賀秀樹（東海市立加木屋小学校）

古瀬久美代（豊田市立滝脇小学校）

安藤翔太（岡崎市立六名小学校）

柳田真弥（大府市立大府小学校）

蕃 文香（豊田市立若園小学校）

鈴木由季子（尾張旭市立本地原小学校）

1. 緒言

2020 年度から導入される次期学習指導要領では、2011 年度から小学校 5・6 年生を対象に実施されてきた外国語活動は、小・中・高へとつなぐ外国語教育（教科）として週 2 時間（1 時間＝45 分、年間 70 時間）実施される予定である。また、3・4 年生では新たに外国語活動が週 1 時間（年間 35 時間）始まる。この全面実施に向けて文部科学省は、2018 年度から 2 年間を移行措置期間として、外国語教育は 50 時間、外国語活動は 15 時間を導入することとした。そして、これらの授業を行うための教材として、『We can! 1・2』（5・6 年生）、『Let's Try! 1・2』（3・4 年生）を配布した。しかしながら、外国語活動や外国語教育を指導するための適切な指導や児童の関心・意欲を高める効果的な授業、授業カリキュラムに対するアイデア、教師の指導力向上など、全面実施に向けて移行期の課題は山積している。

本実行委員会では、外国語活動・外国語教育を指導することに不慣れであ

る担任教師や小学校教員を目指す学生の授業実践力を育成するために、『新年度に向けての小学校外国語活動・外国語教育キックオフセミナー』を2018年2月10日(土)に愛知教育大学で開催した。セミナーでは、授業実践、及び、授業モデルを構築することを目的として、全面実施に向けて2018年度の移行期から現場の教師が準備しておかなくてはならないことや具体的な指導法について、文部科学省が提示している『We can! 1・2』、『Let's Try! 1・2』の指導案通りに「1時間(=45分)」の示範授業を行った。また、指導書に挙げられているデジタル教材等をはじめとして、ICT機器を効果的に活用する方法について実際に参加者の前で示したり、校内研修や授業で即使える活動のアイデア等についても紹介したりするといった内容で行なった。

本稿では、はじめに、セミナーの内容を各学年に具体的に示し、次に、授業の助言者及び、セミナー参加者に行ったアンケートなどにより、授業力向上のための小学校外国語活動・外国語教育の授業実践について考察する。なお、1章2章は高橋、3章は6年安藤、5年柳田、4年番、3年鈴木、4章は古瀬、5章は犬塚、千賀がそれぞれ担当した。

2. 小学校外国語活動・外国語教育の指導者について

小学校外国語活動で児童は初めて外国語＝英語に出会う。彼らが不安や失敗を恐れず、新しいものに挑戦する気持ちを持つために、豊かな児童理解と高まり合う学習集団づくりが求められる。そのために、小学校外国語活動の指導者として学級担任は必要不可欠である。学習指導要領においては、「学級担任の教師又は外国語活動を担当する教師が指導計画を作成し、授業を実施するに当たっては、ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域人材などの協力を得る等、指導体制の充実を図るとともに、指導方法の工夫を行うこと」と明記されている(文部科学省2018:48)。

一方、外国語科でも、指導者は中学年と同様に学級担任は必要であるが、これに加えて、教科化に対応した教育のために、専門性を重視した指導者として、中・高等学校の英語の教員免許を有する小学校教師等の存在は重要である。また、ALTや地域に居住している外国人、外国からの訪問者や留学生、

外国生活経験者、海外の事情に詳しい人々等の協力を得て、実際のコミュニケーションの場で児童に英語を使う機会を持たせることが大切であることが言及されている（文部科学省 2018:128）。

以上のことから、今回のセミナーでは、中・高等学校の英語の教員免許を有する小学校教師で、彼らが担任をしている学年で授業実践を行うこととした。なお、参加者が児童役となった。

授業実践の前に、参加者は小川雅美氏（愛知県総合教育センター研究部研究指導主事）による講演「新学習指導要領のポイント」を拝聴した。この講演では、新学習指導要領における外国語活動・外国語（英語）の目標や指導内容などの解説、2017年度迄の外国語活動（高学年、必修化）と新たな外国語（英語）教育（中学年必修化・高学年教科化）との比較、さらに、実際の指導での具体的な表現や語彙についての内容であった。

3. 各学年の示範授業

示範授業は、各教師は担任をしている学年で授業を行い、参加者を児童に見立てて行われた。4学年全員が電子黒板などの ICT 機器を使った活動を展開した。また、評価についても ICT 機器を使用して、児童一人一人の「振り返り」を瞬時にクラス全員に提示して評価を共有できた学年もあった。

教材は、文部科学省が移行期の外国語活動・外国語教育として配布予定であった『We can! 1・2』、『Let's Try! 1・2』を使用した。

示範授業は小学校で実際の授業時間である 45 分間の授業に、5 分間の授業者説明、10 分間の参加者との質疑応答で行った。45 分間の授業展開では、文部科学省が提示している指導案からその内容をピックアップし、さらに、教師が普段の授業で行っている指導や自分のアイディアを入れた。また、参加者を考慮して、色々な授業に応用できる様に汎用性の高い活動内容とした。なお、指導内容や実際に指導にあたっては、6 年（高橋・安藤）、5 年（千賀・柳田）、4 年（古瀬・番）、3 年（犬塚・鈴木）として、これまでの豊かな指導経験を活かした指導者が、各学年の教師役の担当者に指導助言を行った。

3.1. 第6学年の示範授業

第6学年 外国語科学習指導案

指導者 岡崎市立六名小学校 安藤 翔太

1 単元名 『We Can! 2』 Unit 2 Welcome to Japan

日本の文化（1/8時間完了）

2 本時の目標

- (1)日本の行事や食べ物などについて、聞いたり言ったりすることができる。
- (2)日本の行事や食べ物や、自分が好きな日本文化についての例文を読んだり、例を参考に語順を意識しながら書いたりする。

3 本時の展開

段階 (時間)	児 童 の 活 動	教 師 の 活 動 (○担任, ●ALT)
Warm-up (5)	<ol style="list-style-type: none"> 1 あいさつをする。 ・天気、日付、曜日など 2 動画を視聴する。 ・日本のことをあまり知らない外国人の動画を見せる。 	<p>○楽しい授業の雰囲気を作るために、元気よくあいさつをする。</p> <p>○日本のことをあまり知らない外国人に、日本文化の良さや魅力を伝えるきっかけを作る。 Needsの手立て</p>
Practice (10)	<ol style="list-style-type: none"> 3 本時の学習課題を把握する。 	<p>○“Today’s goal is this.”</p>
	<p>日本の行事や食べ物などについて、英語で聞いたり言ったりしよう。</p>	
Activity (20)	<ol style="list-style-type: none"> 4 単語練習を行う。 ・ Welcome to Japan. ・ In 季節 ・ We have～ ・ It’s delicious. / exciting. / healthy. / fun. ・ You can enjoy / see / eat 5 Let’s watch and think 1を行う。 1. 子どもにイラストに関連した質問をする。 2. 聞かせる。→区切って聞かせる。 3. 内容に関連した質問に答えたり、やりとり 	<p>○学習への意欲を高めるために、はっきりとした声や正しい発音で言えている児童を英語で称賛する。</p> <p>○チャンツでリズムよく行う。</p> <p>○単なる聞き取り練習にならないように、視聴前に「ブラジルの行事は何か」「Laksh はどこの国の子か」などと、予想させてから聞かせるようにする。</p> <p>○“Have you heard of the carnival in Rio de Janeiro?”</p>

	<p>をしたりする。</p> <p>6 Let's Listen 1 を行う。</p> <p>1. close book → Listen</p> <p>2. One more time → 答え合わせ</p> <p>3. 内容に関連した質問をしたり、やりとりをしたりする。</p> <p>7 ゲームをする。</p> <p>(1) Three-Hint Quiz</p> <p>(2) Key-Word Game</p> <p>8 Read and Think / Write を行う。</p>	<p>“Do you like curry and nan?”など、内容に関する質問をしたり、隣同士に話し合わせたりする。</p> <p>○背景知識や生活経験を想起させるために、</p> <p>“In spring, we have～?” “In winter, we have～?”</p> <p>と質問をしたり、「どの行事が好きだと言っていると思う？」と予想させてから聞かせたりする。</p> <p>○デモンストレーションを行う。</p> <p>○ルールを理解できたか、児童を指名して確認し、理解できていないようならもう1度行う。</p> <p>○日本の紹介の文をいくつか言わせ、書かせる。</p>
Look back (5)	<p>9 ふりかえりをする。</p> <p>・日本の行事や食べ物などについての英語を聞いたよ。</p>	<p>○数人の児童を指名し、感想や自分ができたことを発表するように指示する。</p>

4 評価

- ・日本の行事や食べ物などについて、聞いたり言ったりすることができたか。
- ・日本の行事や食べ物などについての例文を読んだり、例を参考に語順を意識しながら書いたりできたか。

3.2. 第5学年の示範授業

第5学年 外国語科学習指導案

指導者 大府市立大府小学校 柳田 真弥

1 単元名 Unit 7 Where is the treasure? 位置と場所
(1 / 8 時間完了)

2 本時の目標

- (1) 物の位置を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。
- (2) 慣れ親しんだ語句や表現を、絵の中から識別することができる。

3 本時の展開

段階	児童の活動	時間	指導者の活動	準備物
券 囲 気 づ く り	1 あいさつをする。 ・ Good morning. ・ How are you? ・ How's the weather?	5	・ 英語であいさつをすることで券囲気づくりをする。 ・ 単元名にもなっている treasure の意味をとらえさせる。 ・ 数名の児童に What's your treasure? と質問をし、treasure について考えさせる。	・ フラッシュカード ・ 手紙や写真
	2 Small Talk をする。			
言 語 活 動	3 本時の学習課題を知る。	6		
	絵の中のものを見つけよう			
	4 Let's Watch and Think 1 を行う。 ①教科書のイラストから分かるものを答える。 ② No.1~No.10 まで聞き、聞こえたものを指でさす。	16 26	・ デジタル教材を拡大し、小さい部分にしぼってどんなものがあるか答えさせる。 ・ 位置関係を表す語をくり返し発音し、児童に意識させる。 ・ 動作やフラッシュカードを使って意味を視覚的にとらえさせるようにする。 ・ on, in, under, by の絵が印刷されたカードを各ペアに配	・ デジタル教材 ・ フラッシュカード ・ カード
5 単語練習を行う。 ・ Where is / are ~? ・ It's(They are) on / in / under / by the desk.				

	<p>6 チャンツを歌う。 It's on the desk.</p> <p>7 Let's Play 1 を行う。 ①指導者が言うものをペアで協力し、指さす。 ②指導者が言ったものの位置を言う。 ③ペアが言ったものの位置を言う。</p> <p>8 絵本を読む。</p>	<p>30</p> <p>38</p> <p>42</p>	<p>り、ペアが指さしたカードを発音したり、カルタ取りをさせたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4人1組を作り、2グループのカードを合わせてPelmanism(神経衰弱)を行う。 ・Where is / are the の後に入れる語を黒板に掲示しておく。 ・デジタル教材で出てこなかった語を中心に出题する。 ・ペアで協力して答えるようにうながす。 ・位置を表す語が言えることを意識させる。 ・登場人物や絵を確認し、文字を見ながら読み聞かせをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フラッシュカード ・デジタル教材
まとめ	<p>9 ふりかえりをする。</p>	<p>45</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふりかえりカード

4 評価

- ・物の位置を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しんだか。
- ・慣れ親しんだ語句や表現を、絵の中から識別することができたか。

3.3. 第4学年の示範授業

第4学年外国語活動学習指導案

指導者 豊田市立若園小学校 蕃 文香

- 1 単元名 『Let's Try! 2』 Unit8 This is my favorite place.
(4時間完了) お気に入りの場所をしょうかいしよう。

2 指導計画

2.1. 単元目標

- (1)進んで、自分が気に入っている場所を伝えようとする。(コミュニケーションへの意欲・関心・態度)
(2)教室名、案内の表現に慣れ親しむ。(外国語への慣れ親しみ)
(3)世界と日本の学校生活の共通点や相違点を通して、多様な考え方があることに気付く。(言語や文化に関する気づき)

2.2. 該当する学習指導要領における領域別目標

聞くこと	イ ゆっくりはっきりと話された際に身近で簡単な事柄に関する基本的な表現の意味が分かるようにする。
話すこと (やりとり)	イ 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うようにする。
話すこと(発表)	

3. 単元計画 全4時間

時	目標(◆)と主な活動 (【 】、○)※【 】=紙 面化されている活動	評価の観点			使用表現	
		コ	慣	気	表現	語彙
1	◆教室の言い方に慣れ親しむ。 ○「どこの教室かな」 写真を見てどこの教室					science room, gym, entrance, arts

	<p>かを考えて発表する。</p> <p>○校内の好きな場所への案内について聞く。</p> <p>○キーワードゲーム</p> <p>【Let's Listen 1】「どの教室かな」</p> <p>登場人物の話を書いて、登場人物と教室のイラストを線で結ぶ。</p> <p>【Let's Chant】 School chant</p>				<p>and crafts room, school office, music room, computer room, restroom, library classroom, playground, school nurse's office, school principal's office, teacher's office, lunch room, cooking room</p>
2	<p>◆世界には様々な学校生活があることを知るとともに、教室の言い方や道案内の仕方に慣れ親しむ。</p> <p>【Let's Chant】 School chant</p> <p>【Let's Play】 ポインティングゲーム</p> <p>○ヒントをもとにどの教室かを考える。</p> <p>【 Let's Watch and Think】</p> <p>学校紹介の映像を見て、どの部屋やどの場所のことを言っているのかを聞き取る。</p> <p>【Let's Listen2】</p> <p>校内地図を見ながら、道案内の音声を聞いて、どこの教室かを考える。</p>			<p>○ ○</p> <p>This is my ~. This is my favorite place. You are at ~ I like ~. You can ~. Go straight. Turn right/left. Stop.</p>	

<p>3 本 時</p>	<p>◆道案内の仕方に慣れ親しみ、自分の好きな校内スポットを言って、学校を紹介しようとする。(本時)</p> <p>【Let's Chant】 School chant</p> <p>○教室についてのヒントを頼りに、どの教室かを発表する。</p> <p>「どこの教室かな」</p> <p>【Let's Play】</p> <p>学校内の好きな場所を伝え合い、教室ごとに友だちの名前を書く。</p> <p>【 Let's Watch and Think 2】</p> <p>道案内の仕方を知る。</p> <p>○校内人気の場所について調べる。</p>	<p>○</p>	<p>○</p>	<div data-bbox="617 616 974 826" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>めざすやりとり</p> <p>A: I like basketball.</p> <p>B: O.K. Go straight, turn right.</p> <p>Is the gym your favorite place?</p> <p>A: Yes, it is.</p> </div>
<p>4</p>	<p>他者に配慮しながら、道案内をしたり自分の好きな校内の場所を紹介しようとする。</p> <p>【Let's Chant】 School chant</p> <p>【 Let's Watch and Think2】</p> <p>「どこの国の学校かな」</p> <p>お気に入りの場所とその理由についての表現を知る。</p> <p>【Activity】</p>	<p>○</p>	<p>○</p>	

ペアで校内のお気に入りの場所について紹介し合う。					
--------------------------	--	--	--	--	--

4. 本時の授業

目標 道案内の仕方に慣れ親しみ、自分の好きな校内スポットを言って、学校を紹介しようとする。

準備 児童用テキスト、教師用絵カード、デジタル教科書、ふりかえりカード

本時の展開

時間	児童の活動	指導者の活動と使用英語例 ◎ 評価 (方法)	準備物
1分	1. 全体にあいさつをする。	・全体にあいさつをし、個別に数名の児童にあいさつをする。	教師用絵カード
2分	2. Let's Chant	・音声教材を聞かせ、聞こえてくる順に黒板に貼られた教師用カードを指し示しながら一緒に言う。 ・教師が英語らしいリズムに気をつけてリードする。	デジタル教材
5分	3. おどこの教室かな ・指導者が見せる校内の教室、特別教室の写真について英語でのヒントをたよりにそれがどの教室かを考えて、発表する。	・指導者が、校内のある教室や場所について、その場所にあるものやできることなどのヒントを出し、児童にそれがどの場所なのかを考え、発表させる。 I like singing. I can play the piano. My favorite place is the music room.	教室用絵カードや写真(教室)

		◎英語を聞いて、どこの場所のことか分かる。〈行動観察〉	
5分	4. 【Let's Play 2】「学校内の好きな場所を伝え合い、□に友だちの名前を書こう」 p 3 3 学校内の好きな場所について伝え合う。 ・友達の名前を、紙面の□に書く。	・教師が使った語彙や英語表現をヒントに、自分たちで好きな場所について友達と伝え合う。 期待される発話例: My favorite place is the playground.あるいは、I like the playground. I play dodgeball.	デジタル教材
10分	5. 【 Let's Watch and Think 2】 p.32 「学校の様子を見て、気付いたことを書こう。」 ・お気に入りの場所とその理由についての表現を知る。	・映像資料を視聴し、それがどこの教室のことかを考えて発表する。また、日本の学校との違いなどへの気づきを、紙面に記入させる。 ・映像をヒントに音声を聞かせるのみで、発話までは求めない。	児童用テキスト デジタル教材
14分	6. 【Activity】「ペアで好きな場所をしょうかいし、その理由について知ろう。」 ・会話の仕方のモデルを見る。 A: My favorite place is the music room. B: Music room. Why? A: I like singing. B: Oh, nice! ・隣や前後の友達とペアで友達の好きな校内の場所について伝え合う。	・校内のお気に入りの場所について、紙面に自分の好きな場所、その理由を記入し、隣や前後の友達とペアになって伝え合う。 ◎自分の好きな場所を言ったり友達の好きな場所を聞いて書きとめたりして、それぞれの場所によさを紹介しようとしている。〈テキスト点検〉	児童用テキスト、

	・人気の場所や教室への行き方を皆で確認する。		
3分	7. 本時の活動をふりかえる。ふりかえりシートに自己評価と感想を書く。 8. あいさつをする。	・児童の英語を使おうとする態度でよかったところについて称賛する。 ・あいさつをする。	ふりかえりカード点検

【既習事項】

3年→This is for you.

4年→turn, right, left, I like (blue). Do you like ~? Yes, I do. / No, I don't.

3.4. 第3学年の示範授業

第3学年外国語活動学習指導案

指導者 尾張旭市立本地原小学校 鈴木由季子

1 単元名 『Let's Try! 1』 Unit4 I like blue.

すきなものをつたえよう

2 目標

(1)相手に伝わるように工夫しながら自分の好みを紹介しようとする。

(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

(2)色の言い方や、好みを表したり好きかどうかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。

(外国語への慣れ親しみ)

(3)多様な考え方があることや、外来語を通して英語の音声やリズムなど日本語との違いに気付く。

(言語や文化に関する気付き)

3 指導計画 (4時間完了)

第1時 多様な考え方があることに気付くとともに、色の言い方に慣れ親しみ好きなものを表す表現を知る。

第2時 (本時) 外来語を通して英語の音声やリズムなど日本語との違

いに気付くとともに、好みを表す表現に慣れ親しむ。

第3時 好きかどうかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しみ、自分の好みを伝え合う。

第4時 相手に伝わるよう工夫しながら自分の好みを紹介する。

4 本時の指導

目標 (1)好みを表す表現に慣れ親しむ。(外国語への慣れ親しみ)

(2)英語の音声やリズムなど日本語との違いに気付く。

(言語や文化に関する気付き)

準備 (教) デジタル教材 ふりかえりカード シール (青・黄・赤)

ピクチャーカード (気持ち、色、♥、割れた♥、スポーツ、食べ物)

(児) カードディスティニー・カード タブレット端末

本時の展開

時間	学 習 の 流 れ	指導上の留意点	評 価
3 (3)	<p>1 授業の雰囲気作りをする。</p> <p>(1) あいさつをする。</p> <p>Hello, how are you? Hello. I'm fine/sad/sleepy /hungry/happy/tired.</p> <p>(2) 「Hello song」を歌う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">♪ Hello Song ♪</p> <p>Hello. Hello. Hello, how are you?</p> <p>I'm good. I'm good.</p> <p>I'm good, thank you. And you?</p> </div>	<p>○ 全体に挨拶をして個別にも挨拶をする。個別に挨拶をすることを通して児童に一人でも英語で挨拶が言えたと成就感をもたせるようにする。</p> <p>○ ジェスチャーをつけて、児童と一緒に楽しく歌う。</p> <p>○ “good”の部分を自分の気持ちに変えて歌ってもよいことを伝える。</p>	<p>○ 自分の気持ちを言葉や表情で表現していた。 (観察)</p>

<p>2 (5)</p>	<p>2 本時の学習内容を知る。 (1) 本時の目当てを知る。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">すきかきらいか答えよう</p> <p>(2) 本時のコミュニケーションのポイントを知る。</p> <p>Clear voice Listen carefully Reaction</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の目当てを提示する。 ○ ジェスチャーをつけて、発音する。 ○ ふりかえりカード(おもて)の<今日のめあて>のうち、今日がんばりたいもの2つに青のシールを貼らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の目当てを知り、自分の目標をたてることができたか。 <p style="text-align: right;">(観察)</p>
<p>5 (10)</p>	<p>3 「色」の言い方を復習する。 (1) 「The Rainbow Song」を歌う。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> The Rainbow Song Red and yellow and pink and green, purple and orange and blue. I can sing a rainbow, sing a rainbow, sing a rainbow, too. </p> <p>(2) カラー・タッチ・ゲームをする。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> カラー・タッチ・ゲーム Touch something [black /white/ brown]などと言って、周囲にある色をタッチするゲーム。 </p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ デジタル教材のリズムに合わせて元気よく歌う。 ○ Clear voiceを促す。 ○ 歌に出てきた色を発音させながら、日本語との音声の違いにも注目させる。 ○ Listen carefullyとReactionを促す。 ○ 「The Rainbow Song」に出てこなかった色も導入する。 ○ 友だちのふりかえりカード(うら)にそれぞれの目当ての評価をシールで貼らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 元気よく歌ったり発音したりしたか。 <p style="text-align: right;">(観察・ふりかえりカード)</p>
<p>15 (25)</p>	<p>4 好みを聞く。 (1) 先生の好きなものとならないものについて話を聞く。</p> <p>(2) 【Let's Listen 2】</p> <p>(3) Who am I?クイズをする。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> Who am I?クイズ 教師が、ある先生になりきって、I like ~.とI don't like ~.を使って好きなもの嫌いなものを言い、それが誰か予想 </p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ♥ (like) と割れた♥(don't like)のカードを提示し、児童にDo you like ~? と尋ね、意味を理解させる。 ○ 英語と日本語との音声の違いにも注目させる。 ○ Listen carefullyを促す。 ○ 登場人物の好きなスポーツなどを聞いて番号を書かせる。 ○ どの先生のことかを予想させ、誰かを確認する。 ○ 友だちのふりかえりカード(うら)にそれぞれの目当ての評価をシール 	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> [外国語への慣れ親しみ] 好みを表す表現に慣れ親しんだか。 (観察・ふりかえりカード) </p>

		で貼らせる。	
15 (40)	<p>5 好きなものを伝える。 (1) 【Let's Chant】 I like soccer. (2) スポーツ編 (2) カードディスティニー・ゲームをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>カードディスティニー・ゲーム 4人組で行う。色とスポーツの絵カード16枚を4人で適当に分けて持つ。指導者がカードを1枚引いて、“Soccer!”等と言う。言われたカードを持っている児童は、I [like / don't like] ~. と自分の気持ちを言いながらカードを机に置く。手持ちのカードがなくなったら上がり。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ リズムに合わせて、児童と一緒に言う。 ○ Clear voiceとReactionを促す。 ○ 4人組を作らせ、カードを4人で分けるように指示する。 ○ ゲームの説明をする。 ○ とまどっている児童がいたら、グループで助けるように促す。 ○ 友だちのふりかえりカード(うら)にそれぞれの目当ての評価をシールで貼らせる。 ○ 児童の活動の様子を評価する。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[言語や文化に関する気付き] 英語の音声やリズムなど日本語との違いに気付いたか。 (観察・発言)</p> </div>
6 (45)	<p>6 本時の活動を振り返る。 (1) 振り返りシートにシールを貼る。 (2) Goodbye Song を歌う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">♪ Goodbye Song ♪</p> <p>Goodbye to you. Goodbye to you. Goodbye, dear friends. I'll see you again.</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ シールが貼られたふりかえりカード(うら)をタブレット端末で撮影させ、データを集約する。 ○ 集約されたデータを見て評価する。 ○ ふりかえりカード(おもて)の<今日のめあて>と比べさせ、<くらべよう>にシールを貼らせる。 ○ 次時の活動の目標を確認させる。 ○ 次時の目標を書かせる。 ○ リズムに合わせて歌わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の目当てとコミュニケーションのポイントについて振り返りをしたか。 (観察・ふりかえりカード)

4. 授業実践の構築に向けて

4.1. 参加者によるアンケート結果

45 分間の示範授業の実践をセミナーで実施したことに対する参加者の意見等を把握するために、アンケート用紙を全員 250 名に配布し、172 名の有効回答を得た。以下はその内容である。

(1) 研修会に参加して役に立ったか (有効回答数：172 名/ 参加者 250 名)

- | | |
|---------------|------------|
| ①非常に役に立った | 114名 (67%) |
| ②役に立った | 57名 (33%) |
| ③役立たなかった | 1名 |
| ④まったく役に立たなかった | 0名 |

(2) 役に立ったと思う内容

①新教材を使った授業のイメージをもてた。

②文科省の指導案の実際として、45 分の指導案を実際にやってみてもらい、紙面ではわからないことに気づいた。

・実際の模擬授業が見られたこと、体験できたこと

③1 時間の流れの具体がつかめた

④ICT 機器、デジタル教科書の活用の活用方法

については、ほとんどの参加者が役立ったとの感想であった。その他には、以下の役立った点が挙げられた。

【外国語活動・外国語教育の方向性等】

- ・小川先生の講演で方向性がよくわかった
- ・目指す方向性のイメージがもてた
- ・文科省の出している指導案というところがとてもよかった
- ・どこを参考にしたらよいか分かった
- ・子どもにどう必要感をもたせるかが大切だと感じた
- ・4 月から実際に使われる教材での研修だったので、学校に持ち帰って広められる。

【授業実践の具体】

- ・教師の発問や子どもとのコミュニケーション
- ・先生方の言葉がけがとても勉強になった

- ・簡単な英語でも授業を進められること
- ・児童に学習内容を定着させるための教師のはたらきかけ、スキル
- ・指示の出し方
- ・学級経営がとても大切であることを再認識した
- ・先生たちがとても楽しそうに明るく授業をする姿
- ・どの子も発話できるような仕掛けの工夫
- ・子どもの乗せ方
- ・授業の雰囲気づくり
- ・変化をもたせた繰り返しの仕方
- ・たくさんのアイディア（多数）配慮する点も学べた
- ・一つの内容を定着させるための学習活動のバリエーション
- ・ふりかえりの時間の大切さ
- ・4つの授業でいろいろな活動のバリエーションを学べた
- ・担任主導の授業のイメージがもてた
- ・チャンツ、スモールトーク、文字の指導の仕方
- ・チャンツの指導が特にためになった
- ・リズムの活用
- ・ゲームの種類
- ・ゲームやカードの具体的な使い方
- ・デジタル教材を活用すれば授業はなんとかなりそうだ、という見通しをもてた
- ・教材の活用の仕方
- ・とても現実的な内容でよかった

【他校等の理解・交流】

- ・中学校教員だが、小学校授業での英語のシャワーにびっくりした。
- ・中学校勤務なので小学校でどんな興味の持たせ方をしているのか学べた
- ・3～6年、すべての学年の授業を見ることができ、レベルなど知ることができた
- ・違う地域、学校の先生の授業を一度に見ることができた

- ・こうした研修会が市内でまったくないのですべて勉強になった
- ・45分通しての模擬授業は今までになかったので、とてもやる気が高まった
- ・準備が大変だと思っていたが、準備ができていれば自分でもできそうだなと思えた

4.2. アンケート結果による考察

教科化に向けて、各市町で研修が実施されている。多くは、講話であったり活動のバリエーションを増やすための実技研修であったりする。しかし、現場の先生方の声に耳を傾けると、「活動をどう組み合わせるとよいのかわからない」「どう活動の関連、関係をもたせていくのか悩む」など、現場の困り感が明らかになった。また、「研究指定校だからできる授業ではなく、ふだんの授業の質をどう高めていったらいいのかが知りたい」という声も聞かれた。文部科学省から配布された移行期の教材を4月から使用して指導にあたる先生方にとって不安の声も多かった。そうした声を受け、企画した今回のセミナーは、肯定的な感想が多く寄せられ、参加者の満足度が高かったと考えられる。また、3・4・5・6学年と学年に対応して行った授業の映像を、ICT機器により、インターネット上で見られるようにしたことで、今回参加できなかった方々も、学校での研修等や自己研鑽に使ってもらうことができた。参加者の要望や今後の動向を踏まえ、次年度の内容をさらに充実したものにしていきたい。

5. 小学校外国語活動・外国語教育の授業実践の構築に向けて

小学校では、2020年度から外国語活動は3・4年生で週1時間、教科外国語（英語）は5・6年生で週2時間の授業を、多くの学校では担任が主導で行うことになる。この導入に向けての最大の壁は、担任が外国語（英語）の授業を主導できる体制作りである。自分が小学校時代に英語の授業を受けた経験がない教師にとっては、3・4・5・6年での示範授業を体験することでイメージをもってもらうことが大切だと考え、本セミナーを企画した。

今後は、誰でもできる授業をベースとして継続するとともに、担任が大き

く授業づくりに関わり工夫した授業（CLIL など他教科との関連の授業や国際理解教育の内容を踏まえた授業など）についても、研修の機会を作ることも必要であると考えている。あわせて今後は、小学校の授業を中学校の英語科教員に見てもらいなど、小中連携の研修内容も必要になってくると考えられる。また、継続的な授業改善に不可欠な学習評価、特にペーパーテストで測れる力はほとんどないので、実効性のあるスピーキングテストの開発と活用による評価の確立も求められるであろう。今後の研修につなげていきたい。

参考文献

- 文部科学省（2018a）『小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編』開隆堂出版。
- 文部科学省（2018b）『We can! 1』 新学習指導要領対応 小学校外国語活動教材 指導編。
- 文部科学省（2018c）『We can! 2』 新学習指導要領対応 小学校外国語活動教材 指導編。
- 文部科学省（2018d）『Let's Try! 1』 新学習指導要領対応 小学校外国語教材 指導編。
- 文部科学省（2018e）『Let's Try! 2』 新学習指導要領対応 小学校外国語教材 指導編。

（謝辞）

本研究にご協力頂いた関係者の方々には深く御礼申し上げます。

本企画は、平成28年度の愛知教育大学教育研究重点配分経費「ICTを活用した小中英語教育：アクティブ・ラーニングを活かした授業づくりのプログラム研究」（代表）高橋美由紀の成果の一部です。